



レインボーネット Rainbow Net

れいんぼー Topics

「ふれあいカフェ ミヤココ」 OPEN!



謹賀新年

会員及び関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になりました。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

平成30年10月にオープンした、市民交流センターイーストピアみやこの2階の一角に、カフェがあります。名前は「ふれあいカフェ ミヤココ」。障がいのある方の「働く」可能性を広げていくことと、市民の皆さまへの障がい理解の拡充を図ることを目的とし、宮古圏域の障がいのある方が働く場所として活用されています。運営は、いきいきフェア（宮古圏域の福祉施設・事業者等が施設製品の販売やイベントの合同企画を目的として発足した任意団体）に加盟している事業所が、ローテーションで月曜日から金曜日、11時～15時開店しています。カフェのメニューは、ラーメン、うどん等の軽食とコーヒー、ジュース等の飲み物があり、現在お菓子やケーキ等の提供についても検討しております。事業所製品のスイーツとともにミヤココで一息つく…そんな空間に、スタッフが笑顔でお待ちしています！（文責：五十嵐）

※【宮古】+【COCO】（フランス語で「大事なもの」）+【ここ（此处、個々）】からなるネーミング「ここは宮古の人たちと個々が集まってこれる場所」

目次 CONTENTS

- | | | | |
|--------------------------|-----|---------------------------|-----|
| ●れいんぼーTopics | 1 | ●はあとふるズームイン「地活センター」 | 8～9 |
| ●年頭にあって | 2 | ●「地域生活支援拠点」とは | 10 |
| ●ザ・自立支援協議会 | 3～5 | ●はあとふるVoice「当事者の声」 | 11 |
| ●宮古圏域・ふくし現場からのレポート | 6～7 | ●なんでもKEIJIBAN、編集後記 | 12 |

法人設立十一年の年を迎えて

特定非営利活動法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット 会長 刈屋 裕之

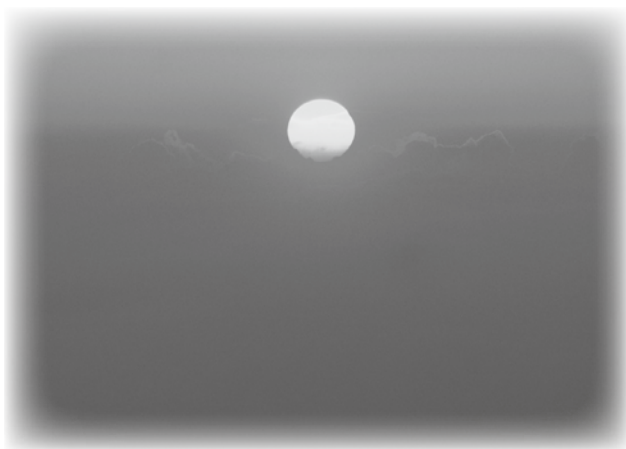


「災」というとても残念な漢字
一文字で一年が締め括られた平
成三十年が閉じ、新たな一年が始
まりました。

始めに昨年一年間、関係機関・
各位・地域の多くの皆様には、私
たち「宮古圏域障がい者福祉推進
ネット」の日々の目的・活動・種々
の事業に対しまして、深いご理解
と心温まるご支援をいただいて
参りましたことに、職員一同心よ
り感謝申し上げます。

また、昨年は私も「レイン
ボーネット」が法人格を取得しま
してから満十年を迎え、記念式典
及び祝賀会を開催することがで
きました。

その際には長きに渡って設立・
運営のご苦勞に携わっていただ



いた、驚くほどたくさんの方々に
ご参加いただき、そのご尽力の尊
さに思いを馳せながら感謝の思
いが溢れる一時になりました。

さて私たちは、障がいがある
も無くても皆同じに尊重され、同
じ大きさの権利を主張できるは
ずなのです。

法によって定められた「障害
者」への差別解消は地域が理解を

深めて、その事も一人ひとりの
個性と捉え、少しでも心を傾けて
いただけたなら、彼らが持つ力を
見出していただけなら、そこは
もう、区別のない平らかな世界と
なり、皆がみんなが地域の中の一
人となり出来る責任を果たし
ていけるものと信じています。

どうぞ皆さんにお願いします。

心ならずも障がいを抱えて生
活している人たちの、優しい観客
となって笑顔で声援を送って下
さい。そして一緒に並んで歩ん
で下さい。

みんなと一緒に命の基である
確かな「息」をつなぎながら暮ら
して行けたなと思います。

昨年の漢字「災」に「息」を加
えると「息災」という熟語にな
ります。

お祈りいたします。

どうぞこの一年が、皆様一人ひ
とりにとりまして息災な日々で
ありますように。





ザ。自立支援協議会

これまでの活動を振り返って

実務担当者会議

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 五十嵐 純子

荒川 東永氏

(宮古市保健福祉部福祉課 副主幹兼障がい福祉係長)

今年度は、「第5期障がい者福祉計画・第1期障がい児福祉計画」の計画期間の初年度であることから、実務担当者会議では、「地域生活支援拠点等の整備について」「就労定着支援について」「医療的ケア児支援について」など、年度初めから様々な事項に



実務担当者会議

ついて協議してきました。

その中でも、医療的ケア児支援に関する協議は、数を重ねて協議しました。医療的ケア児支援においては、医療機関、福祉サービス事業所、教育機関、行政機関など様々な機関が関係します。これらの機関の連携を図る協議の場の設置について検討しました。宮古圏域には宮古市に対象となる児童生徒が6名いるにとどまりますが、保護者の負担は非常に大きく、児童だけではなく保護者の支援も必要であることから、支援対象者の数に関わらず重要な取り組みになるかと思っています。

「第5期障がい者福祉計画・第1期障がい児福祉計画」の中には、国の方針に基づき、国が示すひな形（協議の場の設置例など）を参考にして取り組むものもあり、それをどのようにして宮古圏域にあてはめるか等、実務担当者会議でもなかなか協議が進まず、どうしたらよいのか悩むこともあります。

しかし、協議を重ねることは、改めて課題を認識・整理する機会にもなることから、時間もかかりますが有意義なプロセスだと思っています。また、本計画を進める中で、現在活動している数多くの委員会・協議会・関係者会議等が整理・再構築されるのではないかと思います。

震災復興にかかる道路整備も進み、

宮古圏域間の時間的距離はかなり短縮されました。私たち関係者として当事者の思いも寄せ合えば、障がいのある人もない人も住み心地のよい宮古圏域の実現に近づくのではないかと思います。

権利擁護部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 瀬浪 仁志

小笠原 藍氏

(宮古市地域包括支援センター)

本年度の権利擁護部会は事例検討会や障がい福祉サービス事業者連絡会の研修会の企画を通して、障がいの者の権利擁護とその普及啓発に取り組んできました。部会の中で、特定援助対象者法律相談援助制度や障害者差別解消法などの法制度の概要を学ぶ機会もあり、障がい者を取り巻く環境についても共通認識を図っています。事例検討では、対応に苦慮している内容やどういう手立てがあるのかという方法について活発に意見が出されます。抱える課題には共通している部分もあると感じています。制度の活用だけではその狭間で全てを解決できるわけではないので、



権利擁護部会

今後はどういった社会資源を開発していく必要があるのか、どのようなものが必要になるのかを議論していければと思っています。

12月に宮古市民文化会館で開催した権利擁護セミナーは、昨年度に引き続き劇形式で実施しました。今年度は「クーリング・オフ制度」「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」をテーマに知的障がいのある男性が地域で支えられながら制度を活用して生活していく事例を紹介し、その解説を加えることで参加された方にわかりやすく楽しく伝えることができたかと思っています。

私の所属している地域包括支援センターでは、主に高齢者に関する相談を受けていますが、障がい関連部局との連携や宮古圏域市町村の状況を共有することとはとても重要だと感じています。権利擁護部会では法律専門職や福祉専門職、医療機関や行政など様々な立場の方が意見交換できる場であり、いつも和やかに開催しています。今後この顔の見える関係を大切に宮古圏域の市町村や事業所と連携を図りながら、障がい者の権利擁護の推進に取り組んでまいりますのでよろしくお願いします。

生活支援部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 上野一彦

有原 領一氏

(宮古市社会福祉協議会 地域福祉課 副主幹)

生活支援部会の本年度の取り組みは、「地域懇談会」「チャレンジ



生活支援部会

フォーラム」「農福連携」「事例検討会」「就労アクセスメント」についてであった。

「地域懇談会」はこれまで、地域ごとに課題を設定して取り組んできたが、今年度は内閣府地域活性化伝道師を務める志村尚一さんを講師に招き、地域の中で想定される困りごと等の具体的な事例をもとに、地域包括ケアシステムを解説し、地域で今起きている課題を共有することが出来た。

「チャレンジフォーラム」はこれまで、障がいを持つ方の働き方に焦点を当て継続して開催されてきた。今年度は圏域内の実際に障がいのある方を雇用している民間企業の方々に登壇をいただくとともに、支援者側である就業・生活支援センターや送り出す側の宮古恵風支援学校それぞれの立場から、相互に意見交換がなされた。

「農福連携」は、昨年度は県農業改良普及センターの協力のもと、地域の農業者と福祉事業者が繋がることが出来た。今年度は、更に実践的な取り組みに移り畑わさびの調整作業やりんごの収穫作業を行うことが出来た。

この3つの事業を通して私なりに感じたことは、当事者が働くことを含めて地域の中で生活をしていくことを「支え・つなぐ」ことは、私たち専門職にとって大切なことである。

よく支援の「入口・出口」などと言われるが、それは、誰にとってのものなのか。私たちが関わる方々は地域の企業、事業所、住民…。「福祉」と「地域」がよりよい関係性を構築し、障がいを持つ方に限らず、それぞれが幸福だと感じられるように、また地域の中で取り残される人がないよう包摂される取り組みを、部会を通して働きかけ両者の橋渡し役となるよう努めていきたいと感じている。

精神保健部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 高屋敷大助

佐々木 辰也氏

(社会福祉法人親和会障がい者支援施設望みの園はまなす サービス管理責任者)

一昨年より精神保健部会の担当をさせていただいております。この部会での主な活動内容は、精神科病院より地域移行支援の候補者としてあげられた方の事例を部会内で情報を提供し協議や検討を行う事や、研修会の企画、開催を行っております。

昨年度、地域移行対象者の地域連携パスができた事で統一した内容の情報を共有する事ができ、昨年度より活発な部会となっております。研修会としては、7月には田中尚教授を迎え「岩手における地域移行の20

年をふりかえる」ことについて、8月には山田優先生、上田晴男先生を迎え「私の歩んだ障がい者支援の道」～意思決定支援・権利擁護・地域移行まで～といったテーマで行いました。どちらの研修会も普段お聞きできない話を伺い貴重な経験をさせていただきました。

普段私は、施設のサービス管理責任者として勤務しておりますが、毎年6月に地域移行調査をしております。ご本人とご家族の考えを色々とお聞きした事を部会でも共有できる事は良いことだと思います。

これまでの活動を通じて感じている事です。が、地域移行はご本人やご家族様を始め福祉と医療の連携は必須であり、今後も今以上に関わる全ての方が同じ方向を向き進めていきたいと思っています。また、ご本人様は移行後にも様々な不安等あると思います。そういった事を今以上にサポート

できるようにしなければならぬと思っています。今後も障がいのある方が安心して生活できるように宮古圏域においての役割を担っていききたいと思っています。



精神保健部会

発達支援部会

（事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当 栗津優）

大程朝子氏

（宮古市立第一中学校 指導教諭）

発達支援部会のメンバーは、福祉関係者や保健関係者、教育関係者等、各方面の代表者と、レインボーネットの方たちで構成されています。2か月に一度合同庁舎で定例会を行っています。

この会では「障がいのある方たちが『社会の中で自立して生きていくために必要なこと』をどう支援していくのか」ということを主に話合っています。

そのための活動の一つとして、毎年数回、みちのく療育園の川村みや子先生を宮古にお招きして「育ちの相談会」を行っています。川村先生は、保護者や当事者、支援者に寄り添い、アドバイスを下されます。今年も多数の方が相談を希望され、相談会が行われました。

それから、今年度は「発達障がいの方の歯科診療について」というテーマでアンケートを行い、歯科治療についての課題点や、改善点等、協議しました。発達障がいの方の治療についての情報交換等が行われ、実際の治療に役立つ情報が多々ありました。

また、12月24日に講演会を開催しました。今年度は、本田秀夫先生を



発達支援部会

お招きし「10人に1人が抱える生きづらさの正体とその支援」という演題で、お話をいただきました。「生きづらさ」は、ほとんどの人が感じたことのある感情だと思います。「生きづらさ」とは何なのか、そしてその支援はどうしたらよいのか、自分のこととして受け止めた方が多かったのではないのでしょうか。

活動の一部をここでご紹介しましたが、これからも、当事者の方や保護者の方の思いに寄り添い、活動を進めていきたいと思っています。

現場からのレポート

Report 1

「誰もが過ごしやすい街づくり」を

考えて



宮古市立鋤ヶ崎小学校 教諭 神 諭子

今年度、本校の四年生が総合的学習の時間に取り組んできたテーマです。病気の方や障がいのある方が、日常生活で困っていること、街の工夫、障がいのある方の生活を便利にする道具などについて調べ、自分たちの考えをまとめ、発表しました。

社会福祉協議会の方の協力を得ながら、福祉体験（車いすやアイマス体験）をしたり、目や耳、足が不自由な方

に、直接インタビューをしたり、鋤ヶ崎の街や施設の工夫（点字、スロープの有無等）を調べ活動しました。レインボーネットの方々からは、障がい理解について教えていただいたり、子どもたちから出た疑問に答えていただいたりしました。

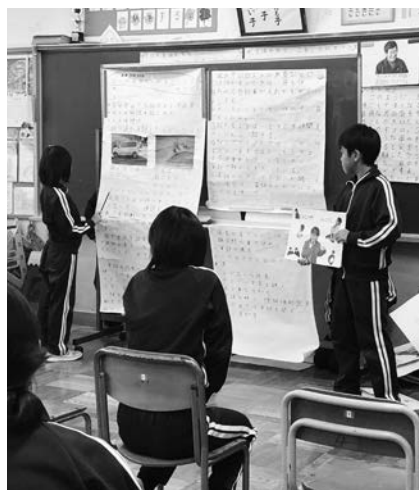
宮古市役所介護保険課の方、介護の仕事に携わっている保護者の方からは、認知症の症状や、認知症の方への接し



車いす体験



出前授業



発表会

方を教えていただきました。

最初、アイマスや車いす体験が、「楽しい体験」と捉えていた子どもたち。生活する上で困ることがあることを知り、「大変」という気持ちに変わっていききました。さらに、様々な工夫次第で過ごしやすいことになること、障がいがあっても、明るく過ごしている人もいることに気づき始めたようでした。

まとめの発表会当日。「大切なのは、助け合う心」という内容で発表を締めくくっていた子どもたちを見て、実りある学習だったことを実感しました。ご協力をいただいたすべての方々に感謝申し上げます。



宮古圏域・ぶくし

Report2

ジョブ・パートナー山田の紹介

【事業所から】

平成30年2月にオープンしたジョブ・パートナー山田です。利用者の方々と共に働くパートナーと位置付けし就労のお手伝いを行っているアットホームな事業所です。施設内では「くるみ細工」「アロマキャンドル」「カッティンググラス」等の作品を制作販売しており、施設外では利用者様が特性に合わせた仕事に取り組んで頂ける様、他事業所と重複しない業種の確保を意識し安心して働いて頂ける環境作りを心掛けております。

見学、体験は随時受け付けておりますのでお気軽にご連絡下さい。

TEL 0193-773163



↑ 外観

ゼリーキャンドル、くるみ細工→

【利用者：金子貴一さん】

○通うきっかけは？

以前は北海道や花巻に住んでいた一般企業に勤めていましたが、人間関係のトラブル、仕事の失敗で叱責されることが多く長続きせず、平成14年頃から何もせず仕事をするのをあきらめていました。山田町に引っ越してきたのは平成28年で昨年からは山田町のサザンクロスに参加することになり、そこでレインボーネットの職員と出会いました。お話しをしていく中で自分に障がいがあるのではという悩みがストンと解消し、日頃物足りなさを感じていたタイミングでジョブ・パートナー山田を紹介して頂きました。見学、体験利用をしたところとても雰囲気良かったので通うようになりました。

○どんな仕事をしていますか？

事業所内ではくるみ作品の制作、施設外就労では一般企業に向きペンキ塗り、わかめの芯抜き、農家さんで収穫作業などを行っています。

○ジョブ・パートナー山田に通うようになって変わったことはありますか？

自分のペースでできるため、気持ちが楽になり集中して取り組む事が出来ます。また他の利用者も話していましたが、事業所の雰囲気、人間関係、作業内容が丁度良く、居心地の良い場所だと感じています。山田に来てから自分に無かった居場所ができたこと、周りから必要とされていると感じることがとてもうれしいです。

○仕事をしていて楽しいこと、不安なこととはありますか？

月1回のレクリエーションは楽しみです、農作業が一番楽しいのもっとやりたいです。不安なことは今はありません。何かあればいろいろな方とお話しして解消しています。

○これからの夢を教えてください。

ジョブ・パートナー山田では、一から野菜やコメ作りをしてみたいです。私生活では交通機関がもう少し整ってきたら、以前住んでいた花巻に頻繁に行きたいです。長く住んでいた街ですし、自分のことを気にかけてくれる方もいるので花巻も大事にしていきたいです。

ち かつ 「地活センター」



に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。

毎

年恒例となりました
はあとふるフェスタ、

今年度も10月7日(日)に宮古市末広町商店街花の木通りにて開催。当日台風が直撃するかもとハラハラドキドキでしたが、予定どおりとはいきませんでしたが、無事に終えることができました。

今回、漫画家さんが大集合！岩手を応援しようとチャリティーサイン会を開催、多くの方々にお越しいただきました。似顔絵を描いてもらい満足そうな表情の方、とびっきりの笑顔で喜んでいる方、まさに岩手を元気にしてくださいました。

地活の表現活動で取り組んだ「つながる樹」の共同作品にも、漫画家の皆さんにイラストを描き入れていただき、豪華なつながる樹となりました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



似顔絵を描いていただき満足!



共同作品「つながる樹」

漫画家さんが共同作品「つながる樹」にイラストを描き入れてくれました



当日の様子

- ◆漫画家が岩手を応援するツアー
- ・チャリティー似顔絵サイン会
- ◆お祭り広場
- ・お祭り縁日
- ・作ってあそぼう(小枝や木の実で工作)
- ・就労継続支援B型事業所の製品販売
- ・活動作品
- ・当事者作品展示
- ◆3ON3ミニ卓球バレー大会
- ◆はあとふるコンサート
- ・みんなで楽しく音楽遊び

はあとふるフェスタ

2018の内容



当事者さんの作品

はあとふるフェスタ2018

はあとふるズームイン!!

「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等(身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等)を対象にピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会基盤



自身の頭をタッピング



講師の
山内良子氏

今 年度から新たに始めた活動「いやしの部屋」、皆さんに癒しを感じてもらおうと、2カ月に1回実施しています。

内容は毎回様々でこれまで動物動画、ハンドケア、タッピング、ハーブティーとお菓子を行い、それぞれ癒しを感じてもらいました。中でもタッピングは皆さん初めての体験で、講師山内氏の指導のもと2人1組ペアを作り、タッピングを「する側」「される側」どちらも体験しました。始めは力加減が分からず苦戦していた方もいましたが徐々に慣れ、ゆっくり同じペースで相手の身体に優しく触れることができ、「心がほつ」となりました。頭部のタッピングが好評で、「とても気持ち良かった」「自宅でも挑戦したい」等の感想がありました。

1月・3月にいやしの部屋を開催します。ぜひお越しください。

いやしの部屋

活動に参加されたボランティアさんの声

◆指先でトントンとして背中から温かくなり、心地良さと安心感を覚えました。病気や障がいを持っている方でも、人の役に立てる講座だと思いました。

今年度の活動予定

☆1/18 ハンドケア

☆3/15 タッピング

(変更になる場合があります)



今年度取り組んだ活動写真



豚汁とおにぎり



バネ口金具とバンドで作ったポーチ



新聞紙バッグ



マンダラ塗り絵

活動に参加された当事者さんの感想

◆やっぱり、外に出る機会になるのでいいです。作る活動が好きなので、これからも参加していろいろ作りたいです。



は あとふるセンターから離れた場所にお住まいの方々には、職員が出向くサテライト型支援を2カ月に1回行っています。ゲームや創作活動、時には簡単な料理を作り、参加者で会食し楽しいひと時を過ごしています。

岩泉町・田野畑村・川井地区で偶数月に開催しています。

サテライト型支援



「地域生活支援拠点」とは・・

宮古保健福祉環境センター管理課 主任行政専門員 盛合 弘道



「地域」、「生活」、「支援」、「拠点」
——こうしてコトバを書き連ねてみると、これまでの障がい福祉の歴史では、以前はあまり使っていなかったものです。

地域生活支援拠点とは、地域全体で障がいのある人を支えるための場や仕組み（基地、ベースキャンプ、拠り所、ネットワーク、方法、思い……）という意味で、その背景には、今までみんなを守ってきた親・兄弟、近隣、友だちがめっきり少なくなってきた、みんなを支え、豊かだった地域が全体的に色

あせ、根や幹や枝が細くなってきたということがあると思います。また、8年前の震災や3年前の台風で、多くの命や財産、かけがえない思い出が失われ、町や地域の風景、みんなの心が大きく変わってしまったこともあります。

あれから「復興」が進み、道路や橋や堤防がドンドン造られてはいますが、しかし、いったん失われたものは、時間と同じように、ふたたび同じ形では戻ってきません。

そんなとき、みんなで、地域の新しい形を再び作っていくませんか、以前とは違う形で、しかし、前よりは少しでもいいものを……というのが、私たちの想いです。障がい当事者が、何か困ったことがあれば相談したり、行き場がない時には少しの間保護してもらい、身体や心を回復させ、仲間と交流しながら、今後の生活を考え、歩んでいくための場や仕組みを、これから数年かけて作っていくと思うています。

これは、実は、障がい者だけのことだけではなく、高齢者だったり、生活困窮者だったり、子どもであつたり、病気をもっていたり、そんな人たちにとっても、同じことが必要なのかもしれません。また、助けが必要な人が、ある時、別の誰かを助けることがあったり、

一人だった人に仲間が増え、一息つける時間が増えたり、みんなそれぞれに色々な新しい暮らし方を発見したりと、これまで想像すらしなかったことが、化学反応のように起きてくるかもしれません。



はあとふる Voice

(当事者の声)

私は回転寿司「海宝」で掃除業務を中心に一般就労しています。就労定着支援というサービスができたと聞いて利用を希望しました。定期的に職員の方が来てくれて、いろいろと親身になって話を聞いてくれます。それだけでも安心できます。おかげで、職場内も働きやすい雰囲気です。今の仕事は好きなので、長く続けたいと思っています。なので、これからもうしくお願います。



就労定着支援

多田村 幸司さん



社会福祉法人若竹会 多機能事業所すきっぷ
電話 0193-71-1245

就労定着支援事業

社会福祉法人若竹会 多機能事業所すきっぷでは、平成30年10月1日より、障がいのある方が企業で長く働くことができるようサポートする就労定着支援事業を始めました。企業や家庭への訪問や電話での相談支援、企業や医療機関、支援機関、ご家庭との連絡調整等を行い、就業生活をサポートします。現在13名の利用者が利用されています。事業についての詳しいことは、お気軽にお問い合わせください！

はあとふる 懇談会

平成30年12月4日
(火) 午前10時から11時
40分まで、宮古市総合福祉センターで、重度重複障がい児者の保護者等を対象に、はあとふる懇談会を開催いたしました。日々の育児や介護の悩み等を自由に話し合い、ゲストによる専門的な助言も受けながら、介護負担の軽減や不安の解消に繋げることを目的としています。今回は宮古第一病院作業療法士の菅野真氏をゲストにお招きし「快適な暮らしについて話そう！」というテーマで行いました。

「介護者の腰痛」「お風呂の入れ方・入浴サービス」「車の乗降の介助」「短期入所施設の必要性」など、他のご家庭ではどうしているのかな？うちはどうしているよ！と話し合ったり、ストレッチ体験をしたり…和気あいあいと懇談することができました。

今後も継続して懇談会を開催し、保護者同士で悩みや情報を共有してホッと一息つけたり、日々の育児や介護を支える一助となればと思います。

アンケートより

- ・皆さんと同じ悩みを聞けて良かった。
- ・ストレッチを教えてもらえて良かった。
- ・小学校に入れるのを楽しみに頑張っていた。
- ・成長にしたがって違う悩みがでくると思うので、今後も参加したい。

・若いお母さん方はこれからまだまだ大変だとは思いますが、絶対楽しい思いをすることもあるので頑張ってください。(という先輩お母さんからのアドバイスも！)

なんでも KEIJIBAN

高次脳機能障がい・家族教室

- 日時 1月22日(火) 10時～12時
- 会場 山口公民館
- 内容

家族教室【WRAP(ラップ)】
「元氣回復行動プランって?」
「無理をしないで」「生き生きと」

講師 宮古山口病院 精神科認定
看護師 小成祐介氏

- 対象 高次脳機能障がい当事者・家族・支援者・他関心のある方等

ボランティア研修会

- 日時 2月16日(土) 13時～15時
- 会場 イーストピアみやこ
第3会議室
- 内容

・講話「ボランティアとは」

講師 岩手県立大学社会福祉学部
社会福祉学科

准教授 菅野道生氏

・グループワーク「ボランティアの心構え〇ケ条を作ってみよう」

・その他、ボランティア活動の情報提供等

- 対象 精神保健福祉ボランティア、ボランティアに関心のある方、保健師、関係機関等

レインボー文庫に新しい本が入りました!

「高次脳機能障害・発達障害・認知症のための邪道な地域支援養成講座」

○原作 榎間 剛 (医師・医学博士)

○まんが 仙道ますみ

高次脳機能障がい者支援の研修会の講師で来られた榎間先生の著書で、わかりやすいイラストや脳の画像等

平成30年度会費のご協力ありがとうございました!

■会員数の状況 (平成30年11月30日現在)

個人会員 80名 (正会員 60名・賛助会員 20名)

団体会員 35団体 (正会員 29団体・賛助会員 6団体)

○団体会員のご紹介 (平成30年11月30日現在・順不同)

団 体 名		
正会員	県北緑化株式会社	宮古市社会福祉協議会
	ハックの家	はあとふるセンターみやこ
	望みの園はまなす	岩泉町社会福祉協議会いすみの里
	みやこワークステーション	宮古山口病院
	アトリエSun	宮古恵風支援学校
	三陸病院	はまゆり学園
	SELPわかたけ	ココロつなぐ会
	わかたけ学園保護者会	ワークプラザみやこ
	みやこ手をつなぐ育成会	自立生活支援センターウイリー
	きぼうハウス	あっとほうむ life みやこ
	工房まんさく	山田町手をつなぐ親の会
	わかたけ学園	宮古市末広町商店街振興組合
	救護施設松山荘	ジョブ・パートナー山田
	宮古市身体障害者福祉会	いわて高次脳機能障害友の会
	宮古アビリティセンター	イーハトーヴ沿岸地区
賛助会員	川井産業振興公社	岩泉町身体障害者協会
	みやこボランティア連絡協議会	そけい整骨院
	あおば工房	宮古職業訓練協会

がたくさん盛り込まれています。
「WRAP」を始める! 精神科看護師とのWRAP入門・WRAP (元氣回復行動プラン) 藤田茂治
WRAPは自分自身の取扱説明書です。自分の感性や力や自分の気持ちにあらためて想いを向けて、自分を自分で取り扱っていく...そんなWRAPに触れてみませんか?



はあとふるセンターみやこ1階にあります。お立ち寄りの際、手に取ってみてください!

「フォーラム・研修会への参加・問い合わせ先」
レインボーネット事務局
TEL 0193・64・7878
FAX 0193・77・3921

かい

いん

ぼ

しゅう

かい

いん

しゅう

ねんかいひ

会員募集

NPO法人
レインボーネットの
活動を応援して下さる方を
募集しています。

個人	正 会 員	1,000円
	賛助会員	500円
団体	正 会 員	5,000円
	賛助会員	1,000円

編集後記

新年あけましておめでとうございます!!

昨年皆様にとりて、どんな一年になりましたか? レインボーネットでは、設立10周年と記念の年でした。平成も残り4ヶ月となりました。新年号はどんなものになるのでしょうか...

さて、今回、イーストピアみやこの中にあるふれあいカフェ『ミヤココ』や昨年2月、山田町に新しく出来た『ジョブ・パートナー山田』の紹介をしています。が、これからは社会資源が増えて、圏域の福祉サービスがもっと充実する様に願っています。

今年の干支はイノシシですが、猪突猛進とならない様、周りにも目を向けながら一歩一歩焦らず進んで行けたら良いですね! 今年一年が実り多き一年になる様、今年も笑顔いっぱいの方にお会いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします! (緑川)

◆発行

NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(レインボーネット)
岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号
はあとふるセンターみやこ1F
TEL 0193・64・7878
FAX 0193・77・3921
E-mail info@myako-rainbow.com
URL http://www.myako-rainbow.com/

◆発行責任者 会長 刈屋裕之

企画・編集
レインボーネット事務局